

第5回 学校再編検討会 次第

議事概要

日時：令和3年8月4日（水）
場所：市役所3階 第1会議室
15:05～15:45

1 あいさつ（小林教育長）

- ・7月29日に開催された市議会の特別委員会でこれまでに開催した学校再編検討会の概要を説明した。検討会で使用した言葉の定義を学校再編計画の素案作成までに行い、誤解無く市民の皆さんに説明できるようにしたいということ、お互いに情報共有しながら議論していきたいことを議員の皆さんにお伝えした。

2 協議事項

（1）学校再編検討会 会議録について

⇒第1回から第3回までの学校再編検討会の議事概要を市のホームページで公開する。最終校正を8月6日とし、加除訂正あれば事務局へ連絡。

（2）小諸東中学校区の小学校再編について

- ・答申では小諸東中学校区は、東小、野岸小、美南ガ丘小学校となる。前回の議論で坂の上小、水明小、千曲小学校の統合校創設後に改めて野岸小学校の扱いを検討するとした。他市で進めている小学校の再編統合では、スクールバスの利用要望が集中し意見がまとまらないようだ。小諸市でも新校の立地にもよるが、バスを使用する地区が増えると考えた方が良いのでは。
- ・芦原中学校区の議論にも関わっているので、中学校区や通学区について前回の議論と重なる点が多い。他の委員の意見も考えると、東小、野岸小、美南ガ丘小学校は小諸東中学校区とした方が良い。
- ・東小、野岸小、美南ガ丘小学校を小諸東中学校区とすることに賛成。児童数の将来推計を考慮しても、小学校と中学校との距離や通学距離を考えると現在の野岸小学校区全てを芦原中学校区とするのは困難。
- ・大筋で同意。もっと踏み込んで発言するならば、答申では東小・野岸小学校を統合し、美南ガ丘小学校との2小学校体制が望ましいとされている。新校創設の費用が工面できるタイミングが何時になるか分からないが、2小学校体制や、野岸小学校の芦原学校区再編校への統合などの議論の余地が残るようにしたい。

- ・近隣市で創設された新校においては、当初の児童数の想定を超えてしまい、教室も足りなくなってしまうと聞いているので、あまり推計を過信しない方が良いのではないかと。ただし、小諸市の場合は校舎の老朽化を含め早急に対策を考えなくてはならない状況にある。
 - ・野岸小学校の児童数の増減がポイントになってくる。10年後の推計では野岸小学校は小規模校化の可能性があるが、東小、美南ガ丘小学校は学校規模として今とそれほど変わらない。一方では芦原中学校の生徒数が減少する傾向が同時期の推計で予想されているため、合わせて検討が必要ではないか。
 - ・10年後の推計で予想されている芦原中学校の生徒数の減少は、小規模校化に直結するほどの減り方ではない。野岸小学校は比較的新しい校舎もあるため使用したい。県費教員の配置が難しいほど児童数が減少した場合にも、市費で雇用することも考えられるため学習環境に差が出ないように配慮できる。
 - ・芦原中学校区の3小学校の早期再編が必要であることは答申と検討会の議論は一致している。ただし、小諸東中学校区の再編について答申では「適切な時期に検討する。」としているが、検討会が作成する学校再編計画では具体的な時期を示す必要がある。抽象的な表現をしては小諸東中学校区の小学校再編が何時になるのか分からず、先行する芦原中学校区と比べて不公平感が生じかねない。小諸東中学校区の再編を検討する時期として、芦原中学校区再編後出生数からおおよその児童数を見込める10年後の令和14年が目安になると思うがどうか。
 - ・確かに検討時期が不明確では先行きが見えず不安になる市民の方もいるかもしれない。芦原中学校区の新小学校を創設した10年後に改めて野岸小学校の児童数の変化を踏まえて小諸東中学校区の再編を検討することとしたい。
 - ・現状においても坂の上小、野岸小学校は県費の専科教員が配置されるギリギリの児童数のため、学校再編計画には統合再編されるまでの間、県費の教員が配置されない場合には、市費で専科教員を雇用することを明記すればより安心感が生まれるのではないかと。
 - ・通学区の分け方は、どの段階で実施するのも検討が必要。個人的にはできるだけ早く通学区を分けてしまった方が良いと思うが、芦原中学校区再編校が創設される段階では野岸小学校区の方達にとってプラスになる要素が無く不満に感じるのではないかと。以降の協議で詳しく議論したい。
- ⇒小諸東中学校区は、東小、野岸小、美南ガ丘小学校とする。令和14年に改めて各小学校の児童数の変化を踏まえて小諸東中学校区の再編を検討することとする。

(3) その他

○次回会議予定：8月18日（水）